

道民の森学校プログラム

TECワンダースクールプログラム新型コロナウイルス感染防止ガイドライン(9/3/2020改訂)

NPO法人 当別エコロジカルコミュニティー

道民の森でも8月24日より宿泊学習が始まり、27日までの間の4日間で3つの学校のプログラムを提供させていただき、ガイドラインを修正することにしました。TECワンダースクールプログラムを依頼される前にご確認ください。また、他のプログラムや施設利用に関するガイドラインについては管理事務所にお尋ね下さい。

また、このガイドライン(0806版)は、文部科学省の「学校の新しい生活様式」(2020.8.6 Ver.3)にあるレベル1を基準に作成しました。

1 ガイドラインの目的

このガイドラインはTECワンダースクールプログラムにおいて感染リスクをできるだけ少なくする目的で作成しました。

2 状況に応じた運用

新型コロナウイルスの知見が日々更新されていますし感染状況も変わっています。このガイドラインは8月6日の提示された文部科学省の「学校の新しい生活様式」(2020.8.6 Ver.3)と北海道の「新北海道スタイル」を元に作成しました。今後、更新される情報により見直しを行いながら改善し、変更がありましたらその都度ご連絡いたします。

また、ガイドライン作成においては一般社団法人 日本旅行業協会 による「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく 国内修学旅行の手引き(第2版)」と全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会による「宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン(第1版)」も参考にしています。

3 基本方針

誰もが感染しているという想定で、人に感染させないための対策としてガイドラインをまとめました。しかし、このガイドラインは規制ではなく、人に感染させない思いやりの気持ちを大切に、自分で判断しながら感染防止の行動をお願いします。

4 対策

1) ガイドラインの考え方

私たちTECがプログラムを提供する上で、私たちスタッフも感染していると想定してガイドラインに沿って対応をすることで感染リスクをできるだけ低くできればと思っています。同じように、参加される皆さんにも感染していると想定し、人に感染させない行動としてこのガイドラインをご理解ください。

このように、ガイドラインに沿った上でプログラムを実施しますが、このCOVID-19は完全に防ぐことができません。プログラムの参加による感染が出た場合もTECでは責任をおいかねますので、あくまでも学校の責任でプログラムの申し込みをご検討ください。(各学校で保護者への説明に必ず申し添えいただき、保護者からの同意書にはその旨が含まれていることをお願いします。)

2) 実施前

道民の森が所在する当別町（スタッフは全員が当別町在住です）、及び、参加される学校のある地域、子どもたちや先生の居住地においてそれぞれの自治体から外出自粛要請や他地域への移動制限が出ていないことや、実施日からさかのぼって2週間以内に新たな感染者が発生し、市中感染率が増加してきた場合（概ね、陽生率が5%を超えた時）、実施の判断を管理事務所と相談しながら進めさせていただきます。直前に状況が変わった場合、プログラムが実施できない場合がありますのでご了承ください。

2) -1 スタッフ

- ☐ スタッフは2週間前から体温を記録し、体調管理に万全を期します。
- ☐ スタッフが実施日の2週間前から発熱（37.5度以上、または平熱比+1度以上）や息苦しさ（呼吸困難）、咳、喉の痛み、だるさ（倦怠感）、頭痛、腹痛（下痢）、体調不良等の諸症がある場合はプログラムに関わりません。
- ☐ 過去2週間以内に感染が拡大している地域（支庁単位の北海道から新型コロナウイルス注意報が発令されている地域）や国への訪問をした場合は参加しません。
- ☐ スタッフが濃厚接触者の疑いがある場合はプログラムに関わりません。
- ☐ プログラム実施当日の朝に体温を測り、37.5度以上、または平熱比+1度以上の場合は参加しません。
- ☐ 上記のケースの場合、プログラムが変更となる場合がありますのであらかじめご了承ください。

2) -2 学校

以下の項目に当てはまる方の参加はできません。

- ☐ 先生や生徒が実施日の14日前から発熱（37.5度以上、または平熱比+1度以上）や息苦しさ（呼吸困難）、咳、喉の痛み、だるさ（倦怠感）、頭痛、腹痛（下痢）、体調不良等の諸症がある場合はプログラムに参加できません。
- ☐ 参加される方の居住地における自治体（支庁単位の北海道から新型コロナウイルス注意報が発令されている地域）から外出自粛要請や他地域への移動制限が出ている時。
- ☐ 過去2週間以内に本人やご家族のどなたかが感染が拡大している地域（支庁単位とします）や国への訪問された時。
- ☐ 過去2週間以内に濃厚接触者として経過観察中、もしくは疑いのある方。
- ☐ 新型コロナウイルスに感染したときに重症化のリスクのある方。（事前に相談したいと思います。必ずお知らせください。）
- ☐ プログラムに同行されるカメラマンの方の健康チェックもお願いします。また、プログラム実施中の感染対策についてもこのガイドラインを守っていただけるようにお伝えください。（このガイドラインをお渡しいただいても構いません）

3 実施中

- ☐ プログラムはミズナラプログラム以外は案内所前の芝生広場での実施となります。各人はフィジカルディスタンスをとり、必要な時はマスクを着用して活動してください。
- ☐ プログラム実施前の集合は密集を避けるために全員で集まらず、プログラム毎での集合をお願いします。

- 集合前にはトイレを済ませ、石けんでの手洗い・うがいをお願いします。手洗いの後は各自のハンカチを使用してください。また、トイレや手洗いをする場所に人が密集しますので、必ず担当の先生が人数制限をしてください。
- プログラム実施中はマスクを持参し、会話をするときはマスクの着用をお願いします。（互いの距離が2メートル取れる場合や、熱中症の危険性がある場合はマスクを外しても大丈夫だと思います。その場合、会話をしないようにしてください。）
- スタッフは実施中はマスクを着用して指導します。さらに、大声を出して飛沫が飛ばないようにハンドマイクを使用します。
- プログラム中（休憩中も含みます）は人と人との距離を2m離すようにお願いします。
- 筆記用具、軍手、タオルなどは各自でご用意ください。
- 飲み物は必ず各自の水筒を持参し、量も余裕を持って用意してください。特に、気温の高いときは頻繁な水分補給をお願いします。
- ケガが発生した場合、TECでも応急処置のトレーニングをしていますが、体制も含めてマニュアルの作成をお願いします。
- プログラム終了後は石けんでの手洗いをお願いします。
- 宿泊学習のスケジュールは例年以上に余裕を持って計画してください。手洗いやトイレ、プログラムの準備と時間がかかるかと思います。

4 実施プログラム

「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』（文部科学省・5月22日）に沿ってTECワンダースクールプログラムを見直し、野外でフィジカルディスタンスを確保できる以下のプログラムの提供とさせていただきます。詳しくはプログラムマニュアル（9月1日版）をご覧ください。

□今年のプログラム

3つの蜜を回避するため、ミズナラへ行くプログラム以外は、案内所までの芝生広場という広い場所で、個人で行うプログラムにしています。

1) 森でビンゴ

ビンゴカードは事前学習として各自で作製し、しおりに挟み込んでお持ちください。

2) 森の俳句ハイク

しおりに俳句を書くページを作り筆記用具は各自でご用意ください。

3) 森の長老ミズナラ

ミズナラの木までの往復ハイクになります。途中、急な上り坂もありますので、マスクは着用はせずに、互いの距離を2m空けて歩きます。

4) 森を体験！ ワンダースクールチャレンジ25

「やってみよう」という一人ひとりの主体的な気持ちから始まるプログラムです。終わった後に振り返りを行います。学校に帰ってからの発展学習につなげることができます。また、25の項目を事前学習として、自分たちで作ってみるとさらに主体的な宿泊学習になると思います。

5) やってみよう！ 野外で英語

学校で習った英語を自然の中で身体を動かし、五感で感じながら身につける活動です。学校の校庭でもできます。

6) 雨のプログラム

「森は、雨が降るととりわけ生き生きとして鮮やかに美しくなります。」とレイチェルカーソンは著書「センス・オブ・ワンダー」に書きました。雨具を用意して「森でビンゴ」や「森の俳句ハイク」「森を体験！ ワンダースクールチャレンジ25」はいかがでしょう？ 雨が強い時は室内で「ヒグマと北海道の環境」と題してビデオを見るレクチャーも用意しました。

- ☐ プログラムは宿泊学習1日目の午前1回、午後1回となります。2日目は午前10時に道民の森を退出となりますのでプログラムは実施できませんが、2日目に新しく入って来る学校がない場合はプログラムが可能です。管理事務所にお尋ね下さい。
- ☐ 1回で行えるプログラムはクラス単位となります。複数のクラスで来られる学校の場合は自然観察やクラフトなどのプログラムに分かれての実施となります。
- ☐ プログラムには必ず先生が付き添い、途中で体調が悪くなった場合の対応をお願いします。

5 その他

- ☐ 重症化のリスクのある先生や生徒がおられる場合は情報共有をお願いします。
- ☐ プログラム途中で体調が悪くなり、感染疑いの症状が現れたときは、直ちにプログラムを中止して本部に戻り、管理事務所と連携を取っての対応をお願いします。
- ☐ 救急要請が必要になったときは、管理事務所に連絡し、指示に従ってください。
- ☐ 9月はスズメバチの巣作りの季節です。十分に注意して活動してください。
- ☐ 秋になるとツタウルシが紅葉をはじめ、葉っぱが落ちる季節です。落ちた葉っぱはツタウルシとわかりづらく（通常は木に巻き付き、同じところから3枚の葉っぱが出ているという特徴があります。）注意してください。
- ☐ 草が茂っているところにはダニが生息しています。プログラム終了後、もしくは入浴時にチェックをしてください。
- ☐ 9月はまだ暑い日があります。熱中症には十分注意してください。
- ☐ 10月に入ると朝晩はかなり冷えます。中旬を過ぎるとセーターやダウンジャケット、手袋は必需品です。
- ☐ 10月の後半になると、時には雪の降ることもあります。車で来られる場合は雪道用のタイヤが必要なこともありますのでご注意ください。

5 最後に

今年は例年通りの子どもたちに寄り添っての対応ができず残念でなりません。でも、野外活動もそうですが、誰もが安全に過ごせて完成です。そのために学校を出発してから帰るまでの宿泊学習全体におけるリスク一覧表を作成しました。一緒にお送りしますので、参考にしてください。また、そのために宿泊学習の活動を変えなくてはならない場面も出てきます。そこで、TECから皆さんへの提案として「新しい学校生活と宿泊学習」という拙文を書いてみました。参考にいただければ幸いです。

宿泊学習の計画される上でワンダースクールプログラムに限らず、ご相談がございましたらいつでもメールをいただければと思います。余談になりますが、TEC代表をしている私（山本）は北海道教育大学札幌校で野外教育論の授業を非常勤講師として10年受け持たせていただいています。そのテーマは、キャンプファイヤーや野外炊事などのノウハウではなく、野外というフィールドを使った学び方とその効果を体験学習やグループワークを中心に教えてきました。例年ですと、受講生が実習として皆さんの宿泊学習に同行するのですが、今年は一緒に連れてくることができずにいますが、授業では宿泊学習の授業案作りを最終レポートとしています。また、2018年にはスウェーデンの学校で使われている「野外で算数」というテキストを翻訳し、教室から飛び出すことで深まる学びについて紹介している最中ですが、このCOVID-19パンデミックをきっかけに世界中で野外を使った授業に注目が集まっています。

最後に、このガイドラインは政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和2年3月28日（令和2年5月4日変更）新型コロナウイルス感染症対策本部決定。以下、「対処方針」という。）を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（2020年5月4日。以下、「提言」という。）において示されたガイドライン作成の求めに応じ、新型コロナウイルス感染予防策として実施すべき基本的事項を整理し、具体的な事例に基づいて作成したもので、「新型コロナウイルス感染症」感染拡大防止のための「北海道」における緊急事態措置（5月15日改訂版）、道立施設の再開に向けた感染防止対策の指針（5月21日）、「新北海道スタイル」安心宣言、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』」（文部科学省・2020.8.6 Ver.3)だけではなく、アメリカCDC「COVID-19パンデミック期間における青少年プログラムの再開チェック表」などを参考に作成しました。

今後、打ち合わせをしっかりとしながら準備を進めてゆきたいと思いますので、できましたらメールでの打ち合わせができればと思います。以下のメールアドレスにご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。また、オンラインでの事前や事後学習の相談もお受けしています。

当別エコロジカルコミュニティー 山本幹彦

TECのメールアドレス：tectec_ee@yahoo.co.jp